

令和7年度外部評価会 集計表(農業者)

所属名: 北薩地域振興局農政普及課出水市駐在

課題名② 肉用牛ヘルパー組織の運営支援						
項目	評価の視点	評価結果(人)			外部委員からの 意見・提言	意見・提言等に対する改善策や 普及指導計画への反映等
		適当	概ね 適当	要 改善		
課題の 設定	①農業者や地域が必要とする課題であるか	5	1		・組合運営は難しい課題なので、県がアドバイスすることでスムーズに進んだのではないかと。 ・畜産は生き物相手で、365日24時間体制で働いている家族経営の農場はなおさらで、とても良い取組だと思う。緊急時に、利用できるとさらに良い。 ・畜産では夫婦二人で休日を取る事が出来ない中、1日でも休みが取れるのはすばらしい事なので多くの農家に活用してほしい。	・関係機関と連携し、引き続き周知を図ってまいりたい。
対象の 選定	②課題に対して対象(農業者、地区)の選定は適切であるか	3	3		・妥当である ・適切ではあるがすぐにはできないと思うが、少しずつ出水管内の家族経営をしている農家にヘルパー組合の事を知ってもらうことが必要。	
活動体制・ 活動方法	③関係機関とうまく連携して活動しているか	3	3		・妥当である。 ・組合員の利用増加に伴い、ヘルパー募集をJA広報誌に掲載。農政普及課、役場、JAの方々の協力によりヘルパー組合が成り立っていると思います。 ・まだまだ内容の見直しがあると思われる。農家との話し合いが大切。	・令和8年度の普及指導計画にも位置づけ、継続して支援してまいりたい。
	④活動(活動方法、時期、手段)は適切であるか	4	2			
	⑤専門的な技術・情報を活用して効果的な活動が行われているか	2	4			
活動の 成果	⑥農業者や地域・産地等の育成や成長に効果が上がったか	4	2		・利用者の余裕につながるので、これからに期待 ・少しずつではあるが組合員も増えてきている。ヘルパーも2名体制になり利用しやすくなった。	
活動の 波及性と改善	⑦他の課題や他農業者、地域への波及性があるか	4	2		・ヘルパーのモチベーションを上げる施策 ・ヘルパー組合はこれからもっと大きくしていかなければならないと思う。しかし会社ではないので問題も山積みである。組合員の力だけでは無理なので関係機関の協力が必要である。	
	⑧結果が十分でないものは今後の対策が考えられているか	3	3			

全体的な意見
・第3者が入ることで、ヘルパー組合員とヘルパーさんがスムーズに意見交換出来ているように感じた ・ヘルパー組合はまだ発展途上だと思います。これからの活動も模索しながらになると思います。少しずつ改善しながら組合員、ヘルパーを増員し、出水の畜産を助けて欲しいです。ヘルパーの意識及び技術の向上を図る為、研修等が必要。 ・ヘルパーさんに全てをまかせるのは無理という気持ちもわかる。すべての課題において、皆で話し合って決めたという事は良い。 ・冠婚葬祭優先して休みが取れるのが農家さんにとってありがたい。ヘルパーさん、農家さん少しずつでもふえていったら良いです。 ・物価高に対応できるような対策を引き続きお願いしたい。

令和7年度外部評価会 集計表(関係者用)

所属名: 北薩地域振興局農政普及課出水市駐在

課題名② 肉用牛ヘルパー組織の運営支援						
項目	評価の視点	評価結果(人)			外部委員からの 意見・提言	意見・提言等に対する改善策や 普及指導計画への反映等
		適当	概ね 適当	要 改善		
課題の 設定	①課題は地域の農業振興上、重要な課題であるか	6	1	0		
対象の 選定	②課題に対して対象(農業者、地区)の選定は適切であるか	6	1	0	・部会員を増やす対策を	・関係機関の皆様と連携し、周知を図ってまいりたい。
活動体制・活動 方法	③関係機関と連携して活動しているか	6	1	0	・会議の中で利用者からの要望もあったが、更なる検討、協議を重ねる必要性も感じた。	・令和8年度も普及指導計画に位置づけ、関係機関の皆様のご協力のもと引き続き取り組んでまいりたい。
	④活動(活動方法、時期、手段)は適切であるか	3	4	0		
	⑤専門的な技術・情報を活用して効果的な活動が行われているか	4	3	0		
活動の 成果	⑥農業者や地域・産地等の育成や成長に効果が上がったか	6	1	0		
	⑦指導対象が積極的に課題解決にあたるようになったか	5	2	0		
活動の 波及性と改善	⑧他の課題や他農業者、地域への波及性があるか	3	4	0		
	⑨結果が十分でないものは今後の対策が考えられているか	3	4	0		

※ 「外部委員から意見・提言」に対して「改善策や普及指導計画への反映等」が連動するように記載してください。

課題毎にシートを分けて作成してください。

全体的な意見
・引き続き連携させていただき、畜産農家のゆとりある経営を目指していきたいと思っておりますので連携をよろしくお願いします。 ・2.5人体制(1人は日数1/2)を試してみたらどうでしょうか？ ・農家が休みをとれる体制は必要である。安定活動のため収支バランスは大事である。

肉用牛ヘルパー組織の運営支援



北薩地域振興局農政普及課
出水市駐在 野崎 聡

1

ヘルパー組合設立の背景

酪 農：県域の定休型ヘルパー組合あり
肉用牛：定休型ヘルパー組合はあまり無い

定休確保でゆとりある
経営を目指したい

肉用牛農家のための
ヘルパー組合を設立(R2.9)

ヘルパー：
畜産農家へ飼料給与
等のお手伝いに来て
くれる労働者のこと



2

課題の選定

R5.9 ヘルパーが退職の意向

- 給与変わらず、物価上昇

役員会
検討

役員会から
農政普及課へ
対応要請

R5.10 臨時総会で対応協議

- ヘルパー給与、利用料の改定
- 業務内容、従事時間等の見直し

ヘルパー再雇用も
組合には課題山積



5

臨時総会(R5.10)～R6総会(R6.5)

- 給与＞利用料 の状態 = 収支バランス悪
→ 他収入が必要
- バイト雇用差益で収益改善を模索 ←

⇒ (1) 組合の収支バランスの改善

組合設立からヘルパーはずっと1人体制

- 平均1.5～1.7回／月 … 毎月フル稼働状態で
増やせない
- 実際にはもっと利用したい、という声あり

⇒ (2) 組合員のヘルパー利用回数の確保

4

ヘルパーの身分保障, 業務内容の明確化

- ・ 毎年総会時『申し合わせ事項』は見直し実施
- ・ 就業規則が棚上げ状態
 - ヘルパーの休みや福利厚生の部分曖昧
- ・ ヘルパーの活動時間延長や新規雇用への対応

⇒ (3) 組織活動の安定に向けた体制整備

利用料設定の変更

- ・ 臨時総会 前：頭数規模で利用料決定 (R5.10) 後：就業時間8時間で同額に
 - 1回当利用料が3~7割アップ
- ・ R4, R5は子牛相場安, 少しでも利用料を下げたい

⇒ (4) 利用料低減に向けた検討

5

普及計画における位置づけ

7 経営管理能力に優れた畜産経営体の育成

1 経営管理能力向上支援

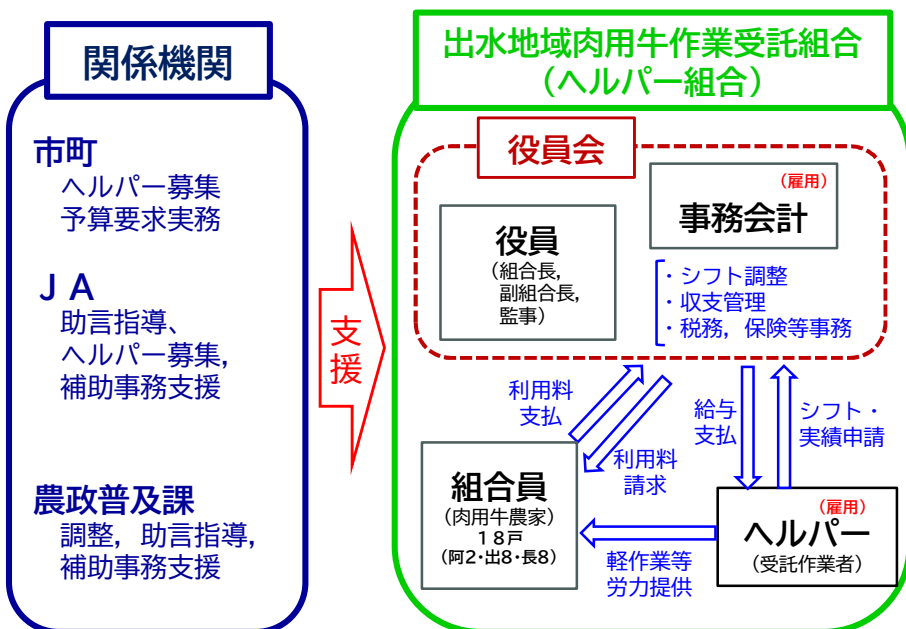
- (1) 若手畜産農家の経営安定支援
 - ア 肉用牛管理技術の向上支援
 - イ 自給粗飼料の生産確保
- (2) 資金借入農家の経営改善支援

2 労働力確保支援

- (1) 肉用牛ヘルパー組織の運営支援
- (2) 地域内粗飼料需給の仕組みづくり支援

6

支援体制について



7

(1) 組合の収支バランスの改善

(R6.6 役員会)

- ・ 組合の収支バランス改善のため, 普及からシミュレーションを提示し, 給与交渉の必要性を検討

(R6.6 全体交流会)

- ・ 全体交流会時に協議し, 会員の同意を得る

組合長がヘルパー要員へ交渉
給与減額で合意

→ 組合の収支バランスは改善

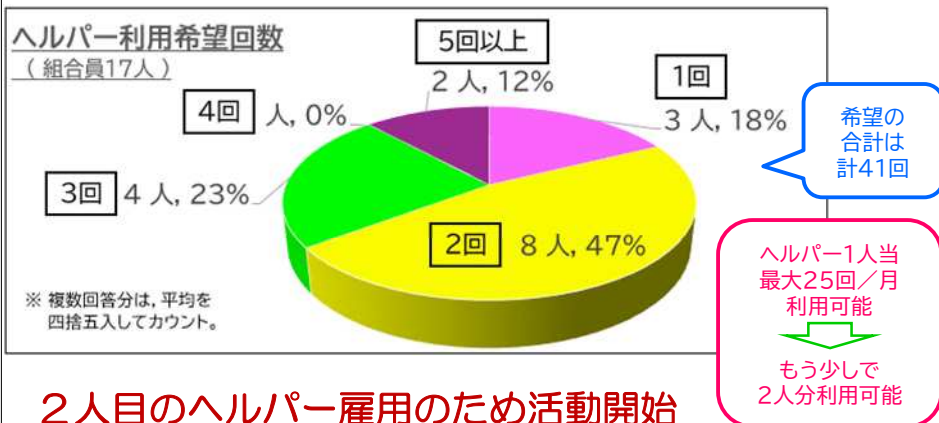
項目	内容	金額 (円)	備考
収入	収入合計	1,000,000	
支出	支出合計	800,000	
収支差	収支差	200,000	
収入	収入合計	1,000,000	
支出	支出合計	800,000	
収支差	収支差	200,000	
収入	収入合計	1,000,000	
支出	支出合計	800,000	
収支差	収支差	200,000	

8

(2) 組合員のヘルパー利用回数の確保

R6.5 通常総会で利用回数を増やしたいとの意見あり

R6.6 組合員へ利用希望回数のアンケートを実施



9

①ハローワークへの掲示



②JA広報を活用



③市町広報への掲載

組合長の伝手で見つかり、R7.3からヘルパー2人体制に！

10

(3) 組織活動の安定に向けた体制整備

① 就業規則の見直し

- ・ R3社会保険労務士から預かっていた就業規則のたたき台を基に、R6から役員会時に農政普及課が呼びかけて1項目ずつ見直し
- ・ ヘルパー体調不良時の休みの取り方や、長期病休の場合の対応方法の検討
- ・ 福利厚生部分の見直し、充実

R8.3月までに就業規則を見直し終わる

R8年度に社会保険労務士へ相談

→ 就業規則の見直しや現状で対応不足な部分を改善していく

12

組合員によるヘルパー利用回数の推移

口コミで会員増

	R2.10	R3.10	R4.10	R5.8	R6.10	R7.10
組合員数 (人)	16	15	14	14	17	18
利用可能回数 (回)	25	25	25	25	25	50
総利用回数 (回)	21	25	25	25	25	50
平均利用回数 (回/人/月)	1.3	1.7	1.8	1.7	1.5	2.8

ヘルパー1人当
最大25回/月 利用可能

1人
体制 ← 2人
体制

利用回数が増えたが、ヘルパーは毎月フル稼働

11

②ヘルパー活動の充実支援

- ・刈払い機研修の斡旋
- ・ヘルパーへ新たに委託したい作業をアンケートで吸い上げて役員会で検討後、総会にて協議
- ・新しいヘルパーへの教育に組合員の意見を反映



13

(4) 利用料低減に向けた検討

①ヘルパーとの給与交渉

- ・ヘルパー側の意向を汲みつつ給与の交渉を行い、R7から1000円／回減額

②3市町と組合への支援を検討

- ・3市町の農政担当課と検討
- ・組合への助成や組合員への利用料助成という形での支援を模索



市町との検討、情報収集を
繰り返す中でALIC事業を発見
→ R8採択に向けて検討

14

活動の成果

- ・ヘルパーとの給与交渉の必要性を示して理解を得られたことで、組合長が交渉し、組合の収支バランスが改善されるとともに利用料を減額できた
- ・利用回数を確保するため2人目のヘルパーを雇用し、組合員の利用回数が増加したことで、組合員の満足度が高まっている

15

今後の支援の方向性

- ・定休型ヘルパーの活用を地域全体へ波及させるための新規組合員勧誘支援
- ・組織活動の安定に向けた就業規則等の整備支援

16